

## 2021 年度第 2 学期始業式校長挨拶 (2021.9.8)

皆さん、おはようございます。約 2 か月間の夏休み、元気に過ごされたでしょうか。

この二か月間の世の中を振り返ってみます。1 学期の終業を行なった 7 月 10 日の東京の新型コロナ感染者数は 950 人でした。それに対し、昨日 9 月 7 日の新規感染者数は 1629 人。5000 人を越えていた時期と比べると、若干ピークアウトが見えてきたと言われていますが、まだまだ厳しい状況です。特に、重症者数については、7 月 10 日の 63 人が 9 月 7 日には 260 人で、4.1 倍に増えています。

7 月 10 日の 1 学期終業の時点で、この夏の日本はどうなるだろうなと思っていましたが、想定した範囲内において、一番厳しい状況、「感染爆発」の状態になったと思います。同時に、そうした状況においても、1964 年以来 57 年ぶりの東京オリンピック、そしてパラリンピックが何とか開催されました。57 年前、私は小学校 1 年生でした。本来なら、国民的な歓喜の中でオリンピックは開催されることが多かったと思います。今大会も、心打たれる多くの場面があった一方で、後世の歴史的観点から見ると、何とも言いがたい複雑なオリンピック・パラリンピックとして歴史に刻まれることは、仕方が無いとは言え、やはり残念でした。

また、高 3 生諸君においては、この秋の衆議院選挙の投票権を持っている生徒もいると思いますが、政治の世界では、菅首相の突然の退陣表明。これも正直二か月前には予想していませんでした。

まさに先行き不透明で解なき時代。コロナのことも含め、様々な情報が流れますが、武蔵生諸君には、一人一人が流れている情報を鵜呑みにせず、批判的精神を持ちながら、まさに自調自考の精神で、自ら考える。そして最後は自ら行動し自ら責任を引き受けるといふプロセスを大事にしてほしいと思います。

さて、今日の始業式では、まず、二学期のコロナ対策について学校の基本的な方針をお話しし、次に来年度から始まるカリキュラム改訂と時間割の一部改訂の話をいたします。

その前に、この夏休みの武蔵生の活躍などについて、お話をします。

まず水泳部。7 月 17 日から埼玉県で開催された関東大会に東京都代表として出場しました。残念ながら関東大会では初戦敗退となりましたが、厳しい状況の中、本当によく頑張りました。おめでとうございます。

続いて、7月19日から開催された国際生物学オリンピック2021ポルトガル大会。今回は残念ながら、新型コロナウイルスの関係で、オンラインでの開催となりましたが、4名の日本代表の一人として、高校3年生の佐藤輝季君が出場。見事銅メダルを獲得しました。おめでとうございます。

それから、毎年日本テレビで行なう「全国高校生クイズ」に、高校3年生の3名が見事東京都予選を勝ち抜いて、全国大会に出場したとのこと。収録は終わり、結果は出ているとのことですので、あさって10日の放映を楽しみにしたいと思います。これは凄いですね。

そうした中であって、中1の山上学校については、宿泊をすることはできませんでしたが、何とか中1の夏の時期に実施したいという思いから、学校発着のバスを利用して、「日帰り山上学校」を実施しました。

緊急事態宣言下での実施でしたので、実施にあたっては、参加希望者と受け入れ先の安全安心を担保する観点から、事前にPCR検査を実施しました。結果として、生徒と先生合わせて検査者数のべ210名全員が陰性で、日頃より、皆さんが感染防止対策をしっかりとされていたことが実証され、ある意味ではコロナに立ち向かう自信になったところです。

また、中2の諸君については、現在、現地受け入れ先とも調整し、10月下旬にみなかみでの実習を何らかの形で実施する方向で準備を進めています。コロナ禍の学年行事ですが、実り多い機会になることを願っています。

さて、今日の話の本題に入ります。

まず一つ目は二学期の学校の新型コロナウイルスに対する基本的な方針です。

最初に現状認識です。冒頭、東京の感染状況のデータを紹介しましたが、大変厳しい認識を持っています。特に現在まん延しているデルタ株は従来株より感染力も強く、重症化リスクも高いと言われています。また、若年層への拡大も見られ、家庭内感染も広がっています。そして何よりも、医療従事者や保健所の皆さんの献身的な努力にもかかわらず、医療がひっ迫しているという厳しい状況を直視しなければなりません。

今までの経験知があるからといって、油断するわけにはいかない。「新たな局面」に入ってきているという極めて厳しい危機意識を持っています。

もう一つの現状認識は、この新型コロナウイルスとの戦いは長期戦に入っているということです。ウイルス側も変異を続け、生き残りを図っています。デルタ株に続いて、最近ではラムダ株やミュー株についても、その性質がどのようなものになっていくか注目されています。ワクチンや接種や薬の開発も進んでいますが、マスクが外せるようになるまでは、まだまだ時間がかかる。来年度いっぱいくらいではないかと思っています。

したがって、感染状況に対する厳しい認識とまだまだ長期戦になるという認識のもと、学校としてどうするかについて、鋭意検討してきました。

2学期に際し、学校によっては、夏休みに続いて休校期間を延長する、あるいはオンライン授業に全面的に切り替える。あるいは分散登校を実施しオンライン授業と併用したハイブリッド型の授業にするなど、様々な対応があります。

武蔵としても、昨年、全面的なオンライン授業を実施しました。コロナ禍において、登校せずとも授業ができるという良い面は多々ありましたが、やはり武蔵の教育活動は対面で行なうのが基本だという思いを、私たちは強く持っています。教育効果の面でも、学びへの参加意欲の面でも、一緒の時間・空間をリアルに共有しているという意味は大きいと考えています。

そうであるならば、大方針として、感染防止対策を「再徹底」したうえで、対面での教育活動を基本としたいと考えています。

感染防止の「再徹底」の具体的方向性は三つ。まず、入り口の段階で、絶対に新型コロナウイルスを持ち込まない、持ち込ませない。

特に、本人及びご家族に体調不良な者がいたりしても、学校にいかなきゃとか、仲間に迷惑をかけられないとか、色々考えて、無理をして学校にということがあるかもしれませんが、そうではなくて、絶対に無理をしない。勇気をもって休んでほしいと思います。それは私たち教員も同じです。突然休講になってしまうこともあるかもしれませんが、何よりも絶対にウイルスを持ち込まないことが重要。くれぐれも無理をしないようにしましょう。

関連して、ワクチン接種についてのお話をします。個人でワクチンを接種する場合、その接種の日や、もし副反応があって学校に来られない場合は、これまでの新型コロナウイルスでの扱いと同様、欠席扱いにはしません。

また、現在、武蔵大学で大学生を対象にモデルナ社の職域接種を8月末から始めたところですが、新型コロナウイルスが若年層にも拡大していること、また接種状況にも地域差があることを踏まえ、接種を希望する高中生にも何とか受けさせてもらえないか、現在、諸課題への対応も含め、関係機関と調整しているところです。うまくいけば9月下旬からの接種になるかもしれませんが、これについては皆さんのニーズも把握したうえで、実施に向けて対応していきたいと考えています。

続いて「再徹底」の二点目は、校内における感染防止対策の再徹底です。特に飛沫防止対策の徹底と教室の喚起の徹底は重要ポイントです。学校内でリスクが高いのは、食事の場面や、部活動前後でおしゃべりや飲食をしている場面などであることが、散々指摘されています。部活動については、学年を越えての活動になるので、ひとたび不用意なクラスターが発生すると影響が大きくなります。改めて感染防止対策について再徹底してほしいと思います。

そうした感染防止対策を再徹底したうえで、学校の教育活動をしっかりと実施していきたいと考えています。

二学期の大きな行事として体育祭があります。現在、体育祭小委員会を中心として、このコロナ禍の状況下でも何とか実施できないか、様々な知恵を出しながら、準備を進めていると聞いています。一方で、緊急事態宣言が9月12日まで延長され、さらに再延長されるということも報じられています。

今年は、記念祭が皆さんの尽力で実施され、成功に導かれたように、何としても体育祭も実現してほしいと願っています。そうしたことから、現下の厳しい感染状況を踏まえ、このたび、日程は現在調整中ですが、実施時期を11月中下旬に延期をしようということになりました。おそらく現在の感染状況よりは改善し、ワクチン接種も進むなど、社会の安全安心も担保されていると想定しています。ぜひ生徒諸君におかれては、中止を余儀なくされた昨年度より一歩も二歩も進め、コロナ禍の体育祭の成功に向け、頑張してほしいと期待しています。

最後に三点目。万が一、罹患してしまった場合の学びの保証です。

武蔵においては、絶対にクラスターは出さないようにしたいとは思いますが、この状況下では、家庭内感染もありますし、孤発例は出てくると思っています。

したがって、万が一、罹患者が出て学級が閉鎖される場合、またそうではなくても濃厚接触者に認定され自宅待機となった場合など、昨年も実施しましたが、即座にオンライン授業の体制を整え、欠席者に対して、「学びの保証」ができるよう、速やかに対応していきたいと考えています。

以上、二学期の学校のコロナに対する大方針をお話ししました。

各クラスでは、組主任の先生方から「二学期の生活心得」が配られると思いますが、良く読んで下さい。生徒諸君におかれても、この厳しい状況において、感染防止対策と教育・学習活動をいかに両立させていけばよいか、主体的に考えてほしいと思っています。

次に二つ目のお話です。

来年度から武蔵のカリキュラムが一部改訂され、時間割が一部変わることについてです。

皆さんは学習指導要領という言葉を知っていますか。これは国、文部科学省が、日本の教育全体の水準の維持向上のために定めたもので、大体10年に一度、改訂され、全国の小中高校は、それを踏まえ、それぞれの学校のカリキュラムを定めます。

今回の改訂により、中学校は今年度から、高校は来年度から、新しい学習指導要領に基づいたカリキュラムになります。武蔵はこれまでも、こうした国の改訂も踏まえつつ、私学として、「武蔵らしい独自の教育」を進めてきました。

さて、今回の学習指導要領の改訂の大きな柱は何か。皆さんも聞いたことがあるでしょうか。「主体的・対話的で深い学び」をすること、そして「探究活動を取り入れる」というところにあります。

つまり、これまで日本の学校の授業は、一方的・受動的に知識を伝える教育が多かった。そうではなくて、もっと「主体的・対話的で深い学び」を進めよう。さらに問題を発見して、それを解決しようとする「探究活動」を大幅に取り入れようということです。

武蔵においては、創立以来、学問を大事にする雰囲気が継承されており、そもそも様々な教科で「主体的・対話的で深い学び」が行なわれ、学校全体として「探究活動」に取り組んできたと思います。

そういう点では、口はばった言い方ですが、ようやく「時代が武蔵に追いついてきた」と思います。したがって、学習指導要領が変わっても、この点では大幅なカリキュラム変更の必要はありませんでした。

ただ、具体的な教科・科目の変更については、高校については少し対応する必要があります。特に社会です。高校では地歴・公民と呼びますが、大きな科目変更がありました。

まず、18歳になれば高校生でも投票権が付与された事などに伴い、「公共」という新しい科目ができました。それから世界史だけでなく、日本の歴史についても、すべての高校生が理解をする必要があるということで、「歴史総合」という新しい科目、さらに領土問題の重要性なども背景に「地理総合」も新設されました。武蔵でも、この新しい科目を踏まえた社会の授業を展開していく必要があります。

さらに、この「公共」「歴史総合」「地理総合」の3つの地歴公民の科目は、すべての高校生が必ず、高校の早い段階で履修しなければならない「必修科目」として設定されたため、特に高校1年でのカリキュラム編成が難しくなってきました。つまり、高校1年で、社会の科目が三つに増えていくと、その分、他の科目を削らなくてはなりません。

この課題に対して、教員間でこれまで、様々な視点から検討を重ねてきましたが、武蔵の結論としては、武蔵ではリベラルアーツの学びとして、幅広い教養を身に付けさせることを目指していることを踏まえ、安易に他の科目を削ることはしたくないとの結論になりました。

問題は、増えた授業の分をどうやって実施するかについてですが、来年度から新高校1年生に限っては、7時間目を週2日増やすことにし、授業時間数を増やして対応することにしました。具体的には、月曜と金曜は、高1については7時間目に授業を行いません。すでに、火曜日は従来から、第二外国語を選択する生徒は7限がありますし、水曜日は組会合など中1から高3まで全学年で7限を実施する予定ですので、来年度からは、とりわけ高校1年生は、週に3日から4日、月、水、金さらには火曜と7時間目の授業が入ることになりました。

このことに付随して、現在高1で実施している「総合講座」の扱いも見直しをする予定です。現在、高校1年生では7時間目などを利用して「総合講座」を行なってきました。ところが、7時間目が入ってきますので、その時間帯が十分に確保できませんし、高1での学習負担も増えてしまいます。

そこで、「総合講座」については、高校1年生必修ということではなく、今後、学年の枠も払いつつ、例えば夏休みだけの活動も認めるなど、履修しやすい条件を整備しながら、発展させていこうという結論になりました。

これらのカリキュラム変更について、現在の中学3年生には、改めて具体的に説明する機会を持ちます。

武蔵としては、引き続き、「幅広い教養」と「探究する心」を大事にしていきたいと思えます。なお、一学期末に皆さんに配布した「大櫓」の中には、これは本年度からの試みですが、各教科における学びの考え方が「カリキュラムデザイン」として示されています。今後、毎年のカリキュラム改訂に応じて、適宜変更していく予定ですが、ぜひ一読していただき、生徒諸君にも、武蔵の学びの全体像とそれぞれの学びの現在地を把握してほしいと思います。

最後に、校長面談の実施について連絡をします。

一学期当初に、校長室での生徒面談を高校3年生から再開する旨をお話しましたが、その後すぐに緊急事態宣言が発令されてしまいましたので、延期をしているところです。皆さんから直接話を聞けるのは、とても貴重で楽しい機会なので、今後の感染状況に応じて、再開できたらと考えています。もはや今年度中の全学年への実施は到底無理ですが、再開の際は改めて、宜しくお願ひします。

今日もコロナ禍において、放送での始業式になりました。大講堂でお話をしていたときが懐かしいです。大講堂で武蔵生が大笑いしたり、拍手をしたり、掛け声をかけたりしてくれる空間が、1日も早く戻ってくることを期待しています。

それでは、有意義な二学期となるように願っています。以上で私の話を終わります。